

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381042

研究課題名(和文) 外国籍等児童生徒教育に関する教員研修プログラムの研究 参加型評価による開発と試行

研究課題名(英文) Research on the Teacher Training Program for the Education of Foreign Students:
Exploit of Participatory Evaluation in Training Program Development and Execution

研究代表者

小池 亜子(田中亜子)(KOIKE, Ako)

国土館大学・政経学部・准教授

研究者番号：10439276

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：教員研修において参加型評価の理論を援用し、計画の段階から教員自身が関与し運営を行った。その結果、教員自身によるニーズ調査と課題の共有がなされ、研修形態が講義受講型から課題解決型に変化した。また、同僚間の協働が促進され、ことばの力を見取る共通指標「日本語ステップ」が開発された。これにより、在籍学級と支援教室との連携を重視した授業実践が行われるようになった。今後、教員の意思決定プロセスの詳細を分析し、効果的な研修プログラム運営のためのモデルを提示したい。

研究成果の概要(英文)：Following the Participatory Evaluation theory, teachers-in-training both planned and ran their own training programs. Need assessments were also done by the participating teachers, and the training form changed from a lecture-course type to a problem-solving type. Collaboration between colleagues encouraged, a common framework for Japanese language assessment called Nihongo Step, was developed. This enabled teachers to make lesson plans for the Japanese language classroom that were more useful, relevant, and applicable to the foreign student's main classwork. Analysis of the decision-making processes of teachers and construction of a model for effective management of teacher-training programs have yet to be completed.

研究分野：日本語教育、外国人児童生徒教育、教師教育、プログラム評価

キーワード：外国人児童生徒 教師教育 教員研修 日本語指導 特別の教育課程 個別の指導計画 参加型評価
プログラム評価

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本語指導が必要な外国人児童生徒教育の分野においては、「JSLカリキュラム」や「JSLバンドスケール」等、効果的な指導のためのツールが開発されてきたが、学校教育現場においてそれらが十分に活用されているとは言えない現状も報告され、教員研修拡充の必要性が指摘されている。外国人児童生徒教育に必要とされる力量の研究においては、教員として一般的に求められる力量を基盤として、日本語指導力、異文化理解力、語学力などのスキルと、情報収集力、ネットワーク力など他者と関わる力の重要性が明らかとなっている。また、指導力の形成過程において、教員経験に加え、「教員の指導をサポートする環境」の有無が大きな影響となることが指摘されている。サポート環境としての教員研修が教員の力量形成に具体的にどのような影響を与えるのかについて分析を進める必要がある。

(2) 外国人児童生徒教育は、学校教育現場に新しい価値観をもたらしており、教育理念の再構築を必要とする。当該地域における教育理念の再構築と、実践経験・指導技術の共有化による組織的な指導体制の整備が求められる。そのため、本研究で試行する教員研修は、日本語指導担当者のみならず、学校管理職、教務主任、学級担任、バイリンガル指導補助者らを対象者として視野に入れる。また、外国人児童生徒の背景が多様で、それぞれの地域において教育課題が異なることから、中・長期的な成果を視野に入れた教員研修の実施には、計画段階から当該地域の関係者と研究者が共同で取り組む必要がある。

2. 研究の目的

(1) 外国人児童生徒教育を地域課題として捉え、対象地域のニーズ調査を基に短・中期的な研修プログラムを策定・実施し、参加者の意識変容や意思決定のプロセスを明らかにする。

(2) プログラム評価のアプローチとして参加型評価を用い、事前評価、形成的評価における意思決定プロセスの解明により、地域行政における自律的、継続的な研修プログラム運営のための開発モデルを提示する。

3. 研究の方法

(1) 地域のニーズを把握し、関係者の連携をより効果的に機能させるために、プログラム評価のアプローチの一つである参加型評価 (Participatory Evaluation) の概念に基づいた研修プログラムを開発・実施する。教員研修は、参加当事者が「何のために参加するのか」「参加してどんな効果があるのか」「教育現場にどんな成果をもたらすのか」を自ら考えプログラムにコミットすることで高い効果を発揮するものであり、参加型アプロ

チの適用により現状の改善・変革を促す効果が期待できる。

(2) 研究対象地域として、群馬県伊勢崎市における取り組みに着目した。伊勢崎市は、群馬県内で定住外国人数最多の地域である。近年、南米地域出身者に加え、アジア圏からの移住者も増加しており、変化し続ける地域の主要な行政課題の一つとして外国人児童生徒教育が挙げられている。まず、伊勢崎市における外国人児童生徒教育のニーズ調査を行い、他自治体等における先行事例と比較しながら、研修対象者、内容と形態、期間を具体的に設定し研修を試行する。研修実施とともに参加者の意識変容や意思決定プロセスについて聞き取り調査を行う。公開研究会を開催して情報交換を行った後、開発・実施のプロセスとその効果について分析する。

本研究は、学校教員をはじめとする地域関係者とともに実践研究である。そのため、伊勢崎市教育委員会に研究協力者として支援を依頼し、研究プロセスを共有しながら課題を遂行した。

4. 研究成果

(1) ニーズ調査に基づく研修形態の変容

指導にあたる教員らが研究・研修の計画段階から参画することにより、将来的に、小学校、中学校、その他の地域関係者との組織横断的・連続的な教育プログラムの構築と運用に寄与することを意図し、参加型評価の理論 (源 2008) を適用して地域関係者と意見交換を行った (市教育研究所長、教員、外国人保護者、NPO 代表が参加、平成 24 年 6 月～25 年 6 月にかけて計 6 回会合)。その結果、市教育研究所長の発案で、教員による研究班が組織され、本研究代表者および協力者は助言者として共同実践研究にあたった。

研究班結成に至る経緯として、まず、平成 24 年度 12～3 月に市教育委員会および教育研究所指導主事の下、月 1 回の企画委員会を開いて検討を重ねた。市内小中学校における外国人児童生徒教育に関する教員のニーズを把握し、それを基に研究課題を具体化することを目的とし、平成 24 年度 2 月開催の日本語教室担当教員および外国籍児童生徒学校生活適応指導助手 (バイリンガル指導補助者) 対象研修会にて、参加者同士が課題を共有するためのグループワークを実施した。その後、教員同士で課題をカテゴリー別に分類し、優先事項について話し合った。この研修時におけるニーズの可視化とグループワークでの共有化により、日本語初期指導の内容・方法、日本語教室と学級担任との連携、教材、教科指導等の補充学習、(からの共通項として) 伊勢崎市における日本語教室のあり方、保護者との関係、市教育委員会の役割の 7 つの課題が確認された。

これらの結果を基に、伊勢崎市教育研究所において小中学校教員 5 名による課題別自主

研究「日本語教育研究班（以下、研究班）」が組織され、課題解決のための資料・情報等の収集および提供、研修の企画・立案・実施について、担当指導主事とともに担うこととなった。

このように、教員自らが共同でニーズ調査を実施し、現場のニーズに即した課題設定を行ったことにより、研修の内容と形態は、これまでの講義受講型から、課題解決型、プロジェクト型へと変化した。

(2) 研究班による研修運営と同僚間の協働

研究班は、ほぼ毎月1回の研究会議を開き、研修計画の立案および「特別の教育課程」による日本語指導の充実に向けた対応を協議した。前述のニーズ調査結果から、各校、各教員がもつ情報や経験の共有が課題解決に有効であると考え、以下の活動が行われた。

経験豊富な教員による Q&A 資料の作成、参考教材の教材分析と学校間での回覧、各校巡回での研究会議開催と教室見学、『研究班だより』発行による自作教具紹介、「個別の指導計画」様式の伊勢崎市版作成、ことばの発達段階を見取る共通指標作成

こうした研究班活動は、研究員の教員にとってのプロジェクト型研修として機能し、上記の指導ツール開発へとつながった。さらに、全体研修の内容・形態の立案、研修当日のファシリテーターを研究員が行うことにより、研修における学習内容とその意義、授業実践での活用の仕方がより明確に共有されるようになった。また、毎月1回の研究会議を通して、より深く学習を重ねた研究員が、研修時のみならず、日常、他の教員の相談役を果たすこととなった。これにより、学校内にとどまらず、地域の学校間での情報共有が進んだ。その結果、同僚間の協働によって上記の試行がなされ、指導の形態に様々な工夫がみられるようになった。全体研修の内容にも各校の実情に応じた授業実践事例の検討が取り入れられるようになった。

(3) 指導ツール「日本語ステップ」の開発

教員自身によるニーズ調査の結果、市内小中学校で組織的に指導に取り組むためのツールが開発された。その一つは、複数の指導者間で子どものことばの発達段階を把握するための共通指標「日本語ステップ」である。これは、「JSL バンドスケール」と同様、観察によって子どもの様子を見取り、指導計画に活かすために、発達段階ごとの特徴を一覧表で示したものである。「日本語ステップ」の特徴は、ことばの力を「日常会話の力」と「学習活動に参加する力」に分けて記述した点、言語形成期前半（就学前～9歳：小学校3年生対象版「日本語ステップ」）と、言語形成期後半（10歳：小学校4年生以上対象版「日本語ステップ」）の2種を作成した点、教員の実体験に基づき、発達段階に応じた支援例を記載した点である。「日本語

ステップ」の開発にあたり、研究班では理論的枠組みや先行研究の勉強会を実施、市内の学校教育現場で指導に役立つツールとするための検討を重ねた。

全体研修においては、「日本語ステップ」の枠組みと活用法をよく理解した研究員が説明することにより、子どものことばの力を把握する観点が担当教員間で広く共有されつつある。研修形態としては、ワークショップが用いられ、実在する児童生徒の事例を検討しながらグループの教員同士が助言し合った。また、「日本語ステップ」は、実践現場での試行を重ねることにより、教員自身の手により修正が加えられ、改良が続いている。今後は、保護者や学校外の関係者とも共有できるツールとしての活用が期待される。

(4) 「個別の指導計画」様式の検討と試行

もう一つは、「個別の指導計画」様式の伊勢崎市版の作成である。研究班で文部科学省の様式参考例を見直し、子どもの背景や学習履歴、学習状況、母語の力等の実態を複数の指導者間でより共有しやすくすること、児童生徒の強みを生かした指導計画を作成すること、引継ぎ資料としても有用なものにすることを旨とし、記載項目や書式に変更を加えた。

平成26年度には、「日本語ステップ」と「個別の指導計画」伊勢崎市版様式の2つの指導ツールを各校で試行するにあたり、臨時研修会を含む4回の研修が実施された。担当教員は自校の外国人児童生徒1人を対象に「個別の指導計画」を作成、計画・実践・評価を継続した結果を研修会に持ち寄り、KJ法を援用したワークショップで課題を検討した。研究員はファシリテーターとして、他の教員の意見を収集した。さらに、指導計画作成時の課題と「日本語ステップ」の活用に関するアンケート調査を実施し、研究会議において教員の疑問点等を分析した。その結果に基づき、平成27年度も引き続き、現場のニーズに即した研修が行われている。

(5) まとめ

以上、教員による研究班活動を軸とした研修の立案と運営により、現状把握 課題共有 計画 ツール開発 試行 結果分析 課題共有のサイクルが組織的に進行するようになった。その結果、研修の内容と形態がプロジェクト型、ワークショップ型に変化し、教員間の交流がより活発となった。特に、指導ツールの開発と試行により、在籍学級と日本語指導教室との連携をこれまで以上に重視した授業実践が行われるようになったことは、研究班活動を軸とした研修運営の成果である。さらに、これまでの実践の分析結果を踏まえ、校内での組織的な取り組みの充実を目指して、平成28年度は研修対象者を管理職、学級担任等へと拡大する見込みである。

(6) 公開研究会、地域関係者との合同研修

伊勢崎市教育委員会との共催で下記の公開研究会を実施した。平成 25 年度伊勢崎市教育研究所夏季研修講座講演会「小学校低学年からの英語教育と多言語育成」、中島和子講師(2013年8月9日、伊勢崎市民プラザ)。また、伊勢崎市内の NPO 法人「コミュニケーションとの共催、伊勢崎市教育委員会の後援で、以下の研修会を実施した。「教科学習につながる日本語指導」、大藏守久講師(2013年11月17日、伊勢崎市民プラザ)。「『特別の教育課程』による日本語指導の方法を考える」、大藏守久講師(2014年8月4日、伊勢崎市民プラザ)。さらに、静岡県袋井市教育委員会、福岡県福岡市教育委員会の協力を得て実施した現地調査結果を踏まえ、下記の公開研究会を実施した。「外国人児童生徒の教育ニーズに応える 学校教育における連携の試み」、佐藤康氏(伊勢崎市立境南中学校)・古川敦子氏他 5 名発表(2015年8月9日、国土館大学、国土館大学アジア・日本研究センターとの共催)。

これらは、地域内外の関係者の交流を促進する機会となり、研修の成果がその後の教育実践に反映されてきている。

(7) 今後の課題

教員の意識変容と、意思決定プロセスのデータの詳細について、本研究期間内には十分にまとめることができなかつたため、平成 27 年度および平成 28 年度前半のプロセスも含めて整理し、日本教育工学会全国大会にて発表予定である。また、研究班の活動および成果と、前述した公開研究会等の内容を含むハンドブック(指導の手引き)を編集中であり、平成 28 年度中に公開する予定である。

<引用文献>

源 由理子、参加型評価の理論と実践、三好皓一(編)評価論を学ぶ人のために、第 6 章、世界思想社、2008、95-112

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3 件)

古川 敦子・小池 亜子・大澤 成基・石原 剛・伊藤 里恵子・阪本 和英・佐藤 康・田口 健治、外国人児童生徒のことはの力を見取る共通指標「日本語ステップ」の開発、群馬大学国際教育・研究センター論集、査読有、第 15 号、2016、49-62

所澤 潤、日本の義務教育制度は大丈夫か!? 就学義務をめぐる奇妙な論理、社会科勉強会会報「逆転」、査読無、第 55 巻、第 6 号、2014、1

小池 亜子、参加型評価を活用した外国籍等児童生徒教育研修プログラムの検討、国土館大学政治研究、査読無、第 4 号、2013、59-80

[学会発表](計 5 件)

大澤 成基・石原 剛・伊藤 里恵子・阪本 和英・佐藤 康・田口 健治・小池 亜子・古川 敦子、小中学校教員による日本語教育研究班の実践事例 伊勢崎市における外国人児童生徒教育の充実をめざして、日本教育工学会第 31 回全国大会、2015 年 9 月 21 日、電気通信大学(東京都・調布市)

小池 亜子他 7 名、外国人児童生徒教育の実践は日本の学校教育に何をもたらすか 教員の協働と地域連携による学びの創造に向けて、日本教育学会第 74 回大会ラウンドテーブル、2015 年 8 月 28 日、お茶の水女子大学(東京都・文京区)

小池 亜子・古川 敦子、ことばの力を見取る共通指標「日本語ステップ」の開発 群馬県伊勢崎市教育研究所日本語教育研究班の取り組み、日本教育方法学会第 50 回記念大会、2014 年 10 月 11 日、広島大学(広島県・東広島市)

大澤 成基・石原 剛・伊藤 里恵子・阪本 和英・佐藤 康・田口 健治・小池 亜子・古川 敦子、小中学校における外国人児童生徒教育の充実をめざした教員研修、日本教育工学会第 30 回全国大会、2014 年 9 月 21 日、岐阜大学(岐阜県・岐阜市)

徳江 基行・小池 亜子、参加型アプローチによる外国人児童生徒教育研修の試行 群馬県伊勢崎市の事例に基づいて、日本学校教育学会第 29 回研究大会、2014 年 8 月 9 日、仙台大学(宮城県・柴田郡柴田町)

[図書](計 1 件)

船戸 嘉津実・古澤 孝夫・石原 剛・小池 亜子、国土館大学政経学部 小池研究室、やってみよう! にほんごかんたん! 第 3 版、2015、64

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小池 亜子(田中 亜子)(KOIKE, Ako)
国土館大学・政経学部・准教授
研究者番号: 1 0 4 3 9 2 7 6

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

所澤 潤(SHOZAWA, Jun)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号: 0 0 2 3 5 7 2 2

志賀 幹郎(SHIGA, Mikio)
電気通信大学・国際交流センター・准教授
研究者番号: 7 0 2 7 2 7 4 7

森田 司郎 (MORITA, Shiro)
専修大学・法学部・准教授
研究者番号：60383452

(4)研究協力者

徳江 基行 (TOKUE, Motoyuki)
伊勢崎市教育委員会・教育長
研究者番号：10628415
(平成 24 年度計画当時は群馬大学客員准教授)

古川 敦子 (FURUKAWA, Atsuko)
大阪教育大学・国際センター・特任准教授
研究者番号：80731801